

平城宮第一次大極殿院地区

復原整備のための基礎調査

当研究所は各分野の学識経験者に参加を依頼し、平成元年度から平城宮第一次大極殿院地区復原整備のための基礎調査を行っている。5年目にあたる本年度は第一次大極殿院建物群の復原設計を行ない、その詳細を検討する作業と、復原される第一次大極殿院建物群の活用・運営方法を検討する作業を行なった。つまり、平城宮遺跡博物館（仮称）の中核施設である第一次大極殿院の復原についてそのハード・ソフト両面に関する調査である。

ハード面に関する調査は建物復原図を作成し、この案に基づく①1/100模型の製作と、同じく②コンピューター・グラフィックス（以下、C.Gと略す）の作成を行ない、復原案の妥当性を検討した。

ソフト面に関する調査は、③博物館等の企画・運営に実績のある専門家を招いて、当研究所員を含めた研究会を行ない、遺跡博物館のあり方を検討する作業と、④海外における大規模遺跡博物館の現況・問題点を把握する調査を行なった。

①の復原模型の製作については別項を設けたのでこれを参照されたい。ここでは②・③・④の調査の概要を紹介する。

②C.Gの作成 第一次大極殿院の復原C.Gによる調査については、平成2～4年度における本調査の中で市販の簡易C.Gソフトを用いて作成し、主に建物全体がおよぼす景観的影響を検討する作業を行なっているが、本年度はさらに詳細な復原設計図に基づくC.Gを作成し、建物の外観および内部空間を視覚的に捉えるシミュレーションを行なった。次年度はこのC.Gを用いて公開・活用面の検討や、展示用アニメーションビデオ作成を行ないたいと考えている。

③平城宮第一次大極殿院地区復原整備研究会 遺跡博物館の将来的なあり方を検討するために研究所員を対象に標記研究会を開いた。会はパネルディスカッション形式で、はじめに5人のパネラーにそれぞれ関連するテーマの話題提供をいただき、その後、渡辺定夫先生の司会で討議を行なった。5人のパネラーと話題は以下のとおりである。話題提供、討議のなかでさまざまな異なる視点からの提言や問題提起があり、これらは今後の計画に反映させていきたいと考えている。

- | | | |
|------------------------|------------|---------|
| (1) 平城宮跡整備の現状と遺跡博物館構想 | 平城宮跡発掘調査部長 | 町田 章 |
| (2) ハウステンボスで考えたこと | 池田研究室代表 | 池田 武 邦 |
| (3) 遺跡博物館と展示について | 丹青研究所研究顧問 | 佐々木朝登 |
| (4) 関西学術研究都市構想における平城宮跡 | 奈良県企画部開発局長 | 藤 原 昭 |
| (5) 奈良市（都市）における平城宮跡 | 東京大学名誉教授 | 渡 辺 定 夫 |

④海外事例調査 当研究所の高瀬要一・小林謙一・小野健吉と、本調査の委託先である㈱都市計画設計研究所の今枝忠彦の4名がイタリア・ギリシャ・トルコの大規模遺跡（ポンペイ・アクロポリス・クノッソス・エフェソス等）および博物館（ナポリ博物館・ギリシャ国立考古学博物館・イスタンブール考古学博物館・トプカプ宮殿等）の現状調査を行った（1993年10月4日～22日）。遺跡では修理・復原・公開方法・利用現況などを主として調査し、博物館では展示方法・来訪者数・サービス施設などを調査した。遺跡は石灰岩やレンガからなる構造物であり、発掘の後、修復し見学に供する方法が基本であり、建物を復原する整備は少ないが、唯一例外であったのはギリシャのアテネにあるアゴラの遺跡で長大なストアの建物を1棟復原し、展示館として有効に活用しており、平城宮の復原建物の活用方法を考える上で、参考になると思った。（高瀬要一）